

何のためのeポートフォリオ？

What purpose does ePortfolio serve?

平岡齊士*¹ 小村道昭*² 宮崎誠*³ 久保田真一郎*⁴ 松葉龍一*¹
Naoshi HIRAOKA*¹ Michiaki OMURA*²
Makoto MIYAZAKI*³ Shin-Ichiro KUBOTA*⁴ Ryuichi MATSUBA*¹

熊本大学*¹ (株) エミットジャパン*² 畿央大学*³ 宮崎大学*⁴
Kumamoto University*¹ EMIT Japan Corporation*² Kio University*³ University of Miyazaki*⁴

eポートフォリオで何をさせたいかによってeポートフォリオを活用する学習設計がなされるべきであるのに、実際にはeポートフォリオシステム導入後に、その機能に応じて学習活動が設計されるケースが多い。本稿ではeポートフォリオの典型的学習活動ごとにeポートフォリオやLMSを含むサービスやツールでの実行可能性を整理し、学習活動に応じたeポートフォリオ設計支援のための指標を提案する。この指標により、まずはeポートフォリオで何をしたいのかが検討され、その用途を実現できることを条件としてeポートフォリオシステムの選定ができることが期待される。

<キーワード> eポートフォリオ 学習設計 学習活動

1. はじめに

eポートフォリオシステムが多く教育機関で導入されている。eポートフォリオシステムは「ひみつ道具」ではなく「学びを記録し、閲覧するツール」に過ぎない。従って“eポートフォリオ”をどう活用するかを設計し、その設計を実現できるeポートフォリオシステムの導入が重要である。しかし現実には予算・時間・システム・人的制約などを満たすことが優先される。中には「3ヶ月後の全学稼働」のために、設計はおろか機能の検討もせずに「多くの大学が導入しているeポートフォリオシステム」を発注した事例も聞く。

結果として、導入されたeポートフォリオシステムの設計思想や機能に即した学習活動が設計される。たまたま「馬に引かれて善光寺参り」で来たならば幸運であって、多くの場合は、過不足のある設計がなされることが容易に推察される。

そこで本稿では、学習活動を実現するために必要な機能からeポートフォリオ設計を支援する指標を提案する。この指標により、闇雲にeポートフォリオシステムを導入するのではなく、先に行わせたい学習活動が検討され、その活動を実現できることを条件としてeポートフォリオシステムの設計や選定ができることが期待される。場合によっては、eポートフォリオシステムではなく、既存のツールやサービスで十分な場合もあるため、eポートフォリオシステムの各機能を代替できるツールやサービスも提案する。

2. 分析の方法

eポートフォリオは用いる主体(学習者・教員・教育組織など)によって分類できるが、本稿では学習者が主体となるeポートフォリオを対象とする。学習者が主体となるeポートフォリオもいくつかの種類に分類できる。例えば、Treuer (2017)はラーニングポートフォリオ、アセスメントポートフォリオ、プロフェッショナルポートフォリオの3つに分類している。また、Barrett (2010)はワークスペースとショーケースの2つに分類している。当然ながら、これらはいずれもeポートフォリオの目的による分類である。

分析にあたって、TreuerとBarrettの分類を参考にして、各タイプのeポートフォリオで行われる典型的な活動を13に細分化した。それら13の活動について、典型的なeポートフォリオシステムであるMahara、LMS(Learning Management System)のMoodle、それ以外のサービスやツール(Dropbox, GoogleDrive, GoogleSite, Evernote, Facebook, Gmail)が実行し得るかという観点で整理した。各活動が各サービスやツールの本来の主たる用途である場合は“◎”、本来の主たる用途ではないが実行しうる場合は“○”、実行しうるが困難なこともある場合は“△”、実行できない、または実行できても敢えてそれを使う利点がない場合を“×”と評価した。各サービスやツールにおける学生や教員のユーザーアカウントは必要に応じて作成されることを前提とした。

3. 結果の考察

分析の結果が表1である。eポートフォリオシステムは全ての活動を実行可能であるが、GoogleDrive もほぼ全ての活動が実行可能である。ラーニングポートフォリオやワークスペースに関わる活動はDropbox やEvernote で実行可能であり、プロフェッショナルポートフォリオやショーケースに関わる活動はGoogleDrive やGoogleSite で実行可能である。科目単体に関する学習活動の記録・省察や評価はLMS で実行可能であるし、各成果物に関する他者からのコメントや評価はFacebook で実行可能である。

以上の結果から「eポートフォリオで行わせたい学習活動が明確」であれば、わざわざeポートフォリオシステムを導入せずとも、無料で使えるサービスやツールを利用することで、その活動のほぼ全てをさせることが可能である。

eポートフォリオシステムはeポートフォリオに関わる活動は「何でもできる」。しかし、eポートフォリオシステムには一つの製品としての統一性がある一方で、カスタマイズできる余地は少なく、外部サービスとの連携も困難な場合が多い。従って導入したeポートフォリオシステムの機能の全てを使うことを前提に設計すれば「帯に短したすきに長し」や「鶏を割くに焉んぞ牛刀を用いん」という事態にもなりうる。また「学習者のためのeポートフォリオ」と銘打っていても、eポートフォリオシステムを導入している教育機関を修了してアカウントが失効すると自分のeポートフォリオにアクセスできないという悲劇（喜劇?）も起こりがちである。それに対して既

存のサービスやツールは特定の活動の実行に適している上に、複数サービス間の連携をサポートしている場合も多い。従ってeポートフォリオで何をさせたいかが明確であるならば、それぞれの活動を実行しうる既存のサービスやツールを組み合わせることで、かゆいところに手が届く「オーダーメイドのeポートフォリオ」が実現可能である。さらに教育機関を修了したのちも、ツールやサービスが終了しない限りはeポートフォリオにアクセスできるし、仮に終了しても新たなサービスへの移行は比較的容易にできるだろう。

4. まとめ

eポートフォリオは「eポートフォリオシステムありき」ではなく、「eポートフォリオでやらせたいことありき」で始めるべきである。慌てて高価なeポートフォリオシステムを導入しがちだが、まずは無料サービスやツールを使ってやってみたらよい。そもそもeポートフォリオの成果物は教育機関ではなく、学習者のものである。学習者がeポートフォリオを使って学習を進めていたらよし、困っていたり不便そうだったりしたら、そこで初めてそれを解決できそうなeポートフォリオシステムがないかを探せばよい。ただし、その場合も他の無料サービスやツールで代替できる場合がほとんどであろう。

参考文献

- Barrett, H. (2010). Balancing the Two Faces of ePortfolios. <http://electronicportfolios.org/balance/> (2016. 6. 6 参照)
- Paul Treuer (2017 発行予定) ピアチュータリングプログラムにおける長期間ポートフォリオ実践. 松葉・小村・久保田・平岡・宮崎(編著) 続・大学力を高めるeポートフォリオ(仮). 東京電機大学出版局

表1.eポートフォリオの典型的な活動に対する一般的ツール・サービスでの実行可能性

	フォー マル 学習 データ の記 録	イン フォ ーマ ル学 習デ ータの 記録	デー タの 限 定共 有	科目 単 位の 振 り 返 り	複 数 科 目 へ の 統 合 的 振 り 返 り	科 目 以 外 の 活 動 へ の 振 り 返 り	学 習 デ ー タ の 一 般 公 開	シ ョ ー ケ ー ス の 公 開	他 者 か ら の コ メ ン ト や 評 価	学 外 か ら の コ メ ン ト ・ 評 価	学 習 エ ビ デ ン ス と の 連 携	デー タ の 検 索	第 三 者 に よ る 管 理
PC上のフォルダ	◎	◎	×	◎	◎	◎	×	×	×	×	◎	◎	×
Dropboxの共有フォルダ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	◎	×	◎	◎	×
GoogleDrive	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△
GoogleSite	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	×	×
Evernote	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	×
Facebook	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	△	×
Gmail	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	○	◎	×
一般的なeポートフォリオシステム(Mahara)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
一般的なLMS(Moodle)	◎	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	○	◎	◎	◎